

## 令和4年度二宮町教育講演会受講アンケート集計結果

## 1. 講演会概要

- ・開催日時： 令和4年7月 26 日(火)13 時 15 分～17 時
- ・会 場： 生涯学習センターラディアン
- ・講演内容： 第1部 魅力的な小中一貫教育（義務教育）を共創するには  
～施設とカリキュラムの連携をデザインする～  
講師：小松 郁夫氏（国立教育政策研究所名誉所員 京都大学特任教授）  
第2部 「ヤングケアラーについて知ろう・必要な支援を考えよう」  
講師：堀越 栄子氏（日本女子大学名誉教授 一般社団法人日本ケアラー連  
盟代表理事 認定NPO 法人さいたま NPO センター代表理事 埼玉県  
ケアラー支援に関する有識者会議委員）
- ・講演会参加者： 172 人

## 2. アンケート結果

- ・アンケート回収率： 130 人/172 人(75.5%)

## 【共通事項】

## ○ 住まいについて

地域	人数（割合）
二宮小学校区(二宮、富士見が丘、松根、山西(梅沢))	31 人(24%)
一色小学校区(一色、百合が丘、緑が丘)	17 人(13%)
山西小学校区(中里、山西(越地・茶屋・釜野)、川匂)	14 人(11%)
町外	60 人(46%)
未回答	8 人(6%)
合計	130 人(100%)

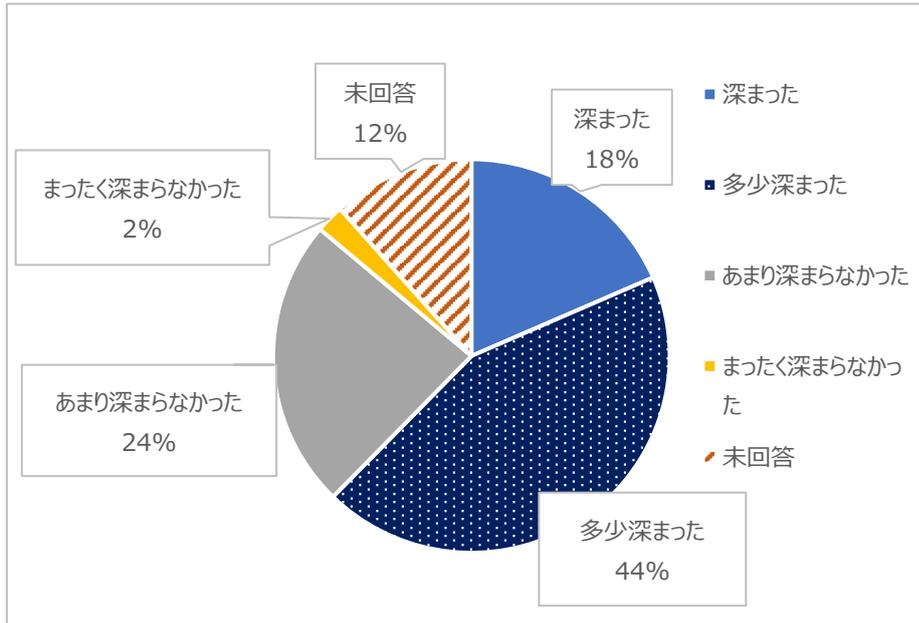
## ○ 職種について

職種	人数（割合）
学校教職員	82 人(63%)
幼稚園・保育園関係者	0 人(0%)
福祉・医療従事者	3 人(2%)
保護者	7 人(5%)
地域関係者(地区長・民生委員児童委員など)	14 人(11%)
一般	8 人(6%)
その他	6 人(5%)
未回答	10 人(8%)
合計	130 人(100%)

※ その他内訳：1 人(議員)、1 人(市職員)、4 人(未回答)

【小中一貫について】

○ 小中一貫への理解の深まりについて



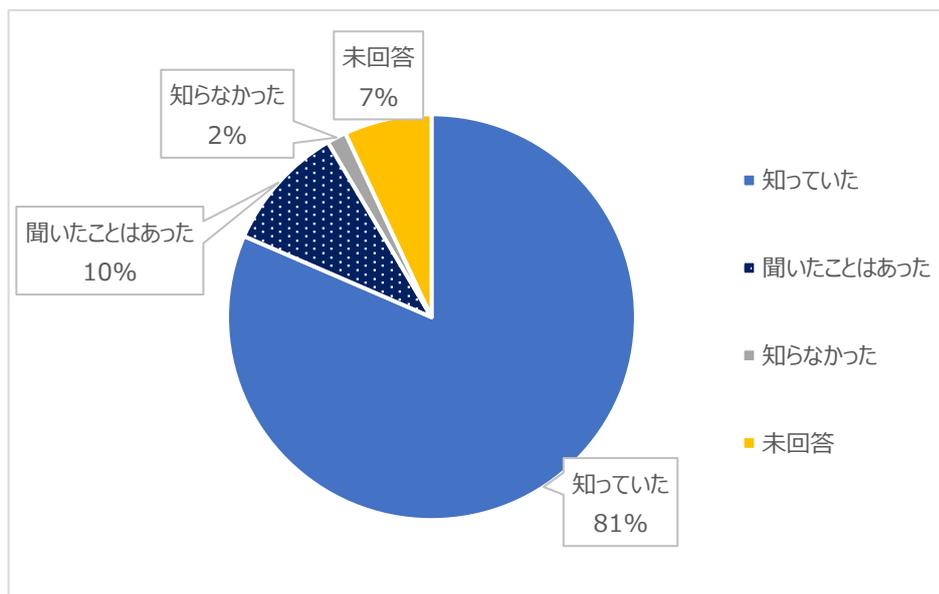
■ 学校区ごと (人)

	深まった	多少深まった	あまり深まらなかった	まったく深まらなかった	未回答	合計
二宮小学校区	6	12	8	1	4	31
一色小学校区	3	9	5	0	0	17
山西小学校区	4	5	3	0	0	14
町外	11	31	14	2	2	60
未回答	0	0	1	0	7	8

■ 職種ごと (人)

	深まった	多少深まった	あまり深まらなかった	まったく深まらなかった	未回答	合計
学校教職員	15	40	21	2	4	82
幼稚園・保育園	0	0	0	0	0	0
福祉・医療	0	1	1	1	0	3
保護者	2	2	1	0	2	7
地域関係者	2	4	2	0	6	14
一般	1	3	3	0	1	8
その他	2	2	1	0	1	6
未回答	2	5	2	0	1	10

○ 分離型小中一貫の開始について



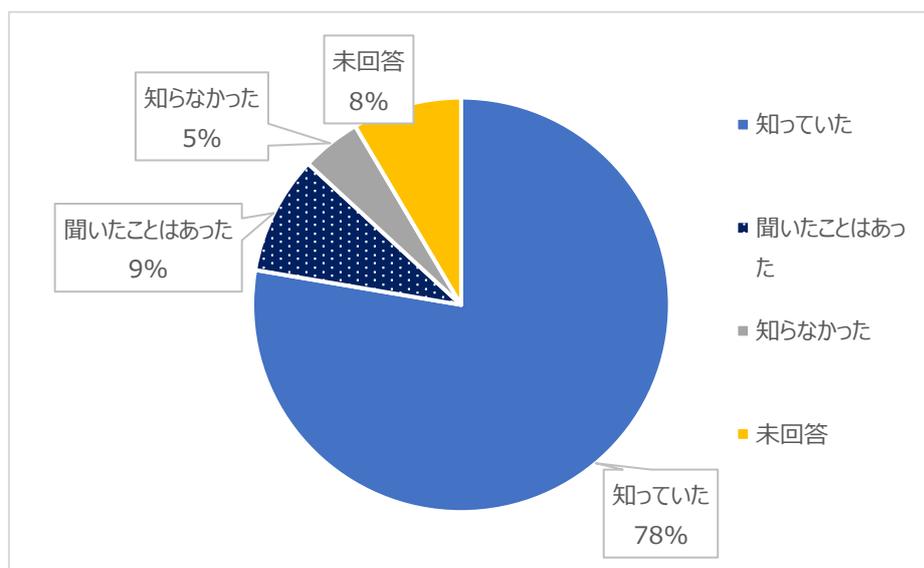
■ 学校区ごと (人)

	知っていた	聞いたことはあった	知らなかった	未回答	合計
二宮小学校区	23	6	0	2	31
一色小学校区	15	2	0	0	17
山西小学校区	13	1	0	0	14
町外	54	4	2	0	60
未回答	1	0	0	7	8

■ 職種ごと (人)

	知っていた	聞いたことはあった	知らなかった	未回答	合計
学校教職員	75	5	1	1	82
幼稚園・保育園	0	0	0	0	0
福祉・医療	1	2	0	0	3
保護者	5	1	0	1	7
地域関係者	7	2	0	5	14
一般	6	1	0	1	8
その他	5	0	0	1	6
未回答	7	2	1	0	10

○ 将来的に施設一体型小中一貫を目指すことについて



■ 学校区ごと (人)

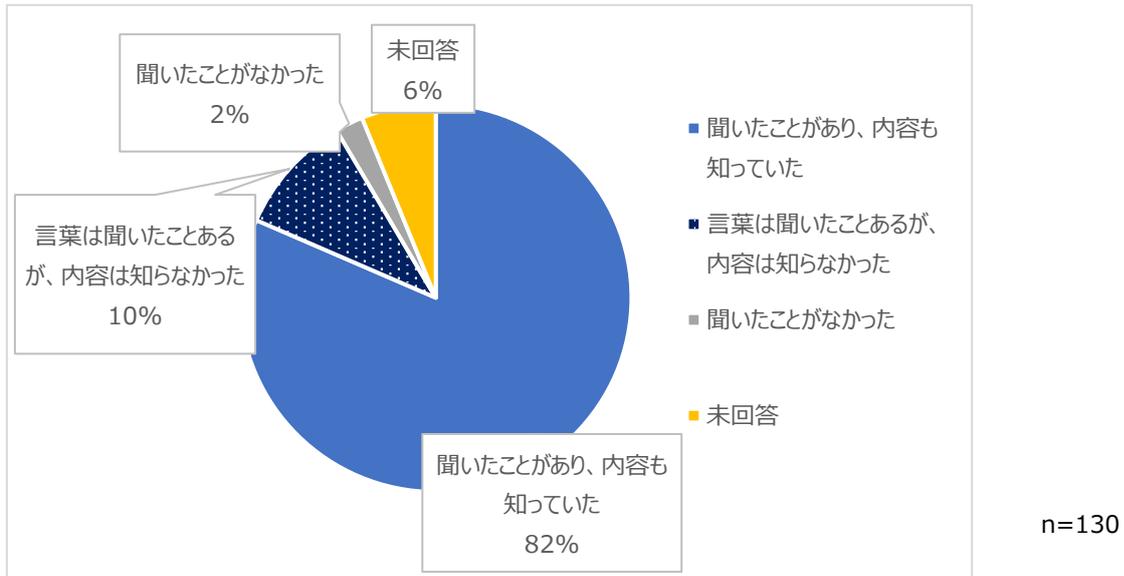
	知っていた	聞いたことはあった	知らなかった	未回答	合計
二宮小学校区	23	5	0	3	31
一色小学校区	14	2	1	0	17
山西小学校区	13	1	0	0	14
町外	50	4	5	1	60
未回答	1	0	0	7	8

■ 職種ごと (人)

	知っていた	聞いたことはあった	知らなかった	未回答	合計
学校教職員	71	6	4	1	82
幼稚園・保育園	0	0	0	0	0
福祉・医療	1	2	0	0	3
保護者	6	0	0	1	7
地域関係者	7	2	0	5	14
一般	6	0	1	1	8
その他	4	1	0	1	6
未回答	6	1	1	2	10

【ヤングケアラー】

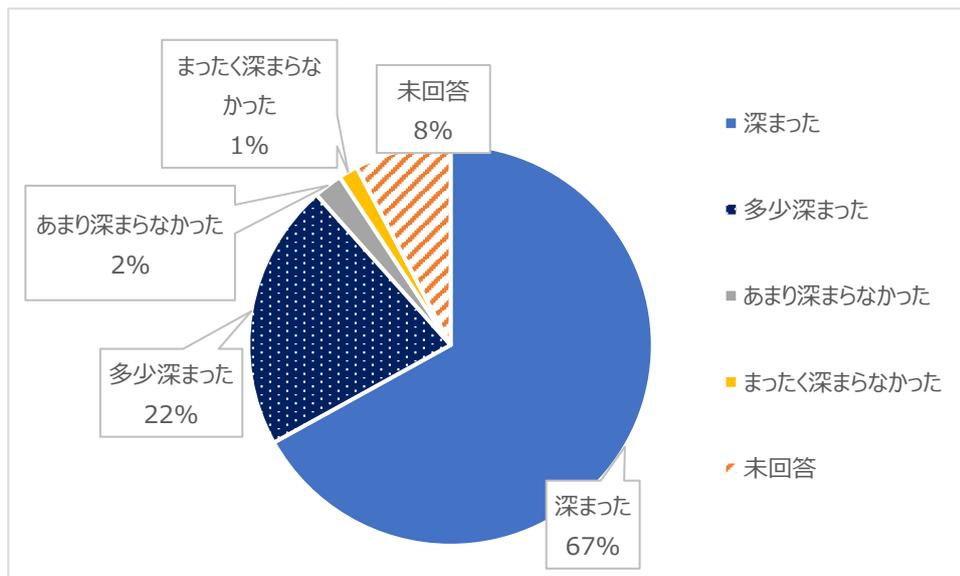
○ ヤングケアラーの言葉について



■職種ごと (人)

	聞いたことがあり、内容も知っていた	言葉は聞いたことあるが、内容は知らなかった	聞いたことがなかった	未回答	合計
学校教職員	71	9	2	0	82
幼稚園・保育園	0	0	0	0	0
福祉・医療	3	0	0	0	3
保護者	7	0	0	0	7
地域関係者	11	3	0	0	14
一般	6	1	1	0	8
その他	6	0	0	0	6
未回答	2	0	0	8	10

○ ヤングケアラーへの理解の深まりについて



■職種ごと (人)

	深まった	多少深まった	あまり深まらなかった	まったく深まらなかった	未回答	合計
学校教職員	56	22	2	1	1	82
幼稚園・保育園	0	0	0	0	0	0
福祉・医療	2	0	0	1	0	3
保護者	6	1	0	0	0	7
地域関係者	11	2	0	0	1	14
一般	6	2	0	0	0	8
その他	5	1	0	0	0	6
未回答	1	0	1	0	8	10

## [自由意見・小中一貫教育]

- 参加者から寄せられたご意見を10カテゴリーに分類
- いただいたご意見は、明らかな誤字・脱字、また、同種の意見と思われるものを除き、原則、原文のまま掲載

### ■ 講演会について

- ・今日の講演では「先生はがんばって新しい教育を作る。それを地域の方は支える」という話でしたが、新しい教育をどうやって作る？そこが分かりませんでした。それを知りたいです。(6)
- ・今回の講演の内容は、昨年度に行われたほうがよかったとおもいます。(小中一貫の考え方や構想を今聞かされるのかという感じです。)今年度は、具体ができ上がっていて、その説明があったほうがよかったと思います。見通しが見えてこないことが心配です。(39)
- ・概念的な話が多く、具体がもう少しほしかったです。(42)
- ・小中一貫校を運営している実例 勤務形態や部活、クラブの扱い、行事の運営、授業の持ち方、委員会の運営など(70)
- ・中一の壁というような、小学校と中学校の違いに対応しきれずに不登校になってしまったりする現状を打破するための小中一貫教育とおおまかにとらえていたが、今日の講演を聞いて、理解が深まった。小学校、中学校のそれぞれの文化の違いがあるからこそ、これから創っていく新しい文化におもしろさが出てくると前向きに考えることができた。(79)
- ・講演の内容は、義務教育全般の内容であったので、小中一貫のメリットデメリット教員の負担などについてお話を伺いたかった。(100)
- ・言葉や文字だけの講演会ではない方が伝わる。例えば全国の「魅力的」な分離型小中一貫教育の様子を映像で見せたり、二宮町の保護者や地域の方々と学ぶ機会を紹介したりすると良い。今回の講演会からどうやって「魅力的な小中一貫教育を共創するか」はイメージしづらかったにではないかと残念である。伝え方を工夫していただきたかった。(118)
- ・実例をもとにお話しいただき、ありがとうございました。(122)

### ■ 分離型小中一貫について

- ・「分離型」小中一貫教育では、具体的にどんなことに取り組むのか知りたいです。コミュニティスクールになったものの具体的に地域と学校が協力し合い取り組む活動があったのか、または何か活動を予定しているものがあるのか知りたいです。コミュニティスクール化でも変化を感じていないので「分離型」となっても名ばかりになってしまうのではと感じています。(46)

- ・二宮町の抱えている問題と、本日の話は少し遠い気がしました。目下の課題は来年からの二宮町内5校の姿が見えないことです。分離型だから名前だけ「学園」つけばいいのですか？乗り入れ授業をどの教科でやるのか、行事や部活の交流はどうするのか、具体策がなさすぎます。オンラインは非現実的です。教員も不足しています。1年切っているのに。(65)
- ・二宮町の「分離型」小中一貫教育にどれほどの意味があるのか疑問に感じています。(ご質問をされていた方と同感です)そもそも、指導要領どおりに学習を進めていけば、一貫した学習になると思うし、オンラインでの専門的な学習ならば学校がやる意味がないと思うからです。準備段階から教員の負担が増える一方です。「一体型」の施設ができてから試行錯誤しながら進めていけばよいのでは？10数年先は色々変わってきているでしょうし。(114)

### ■ 施設一体型について

- ・施設一体型に数年で実現すべきと考えるべき。(13)
- ・人・物・金が不十分な現状で「小中一貫教育」という新しい事業を行っていくのは苦しいと思います。住民の理解を得るだけでも大きな労力が必要です。単純な「統廃合」として一体化し、カリキュラム等を整えていく方が結果的にスムーズに進むと思いました。(18)
- ・2040年にできる見通しが本当に立っているのか気になる。(31)
- ・一体型になったときの教員の動きについてよく分かっていないので教えてほしいと思った。(67)
- ・施設一体型になるまでの期間が長すぎるのではないか。施設(校舎)の維持管理費用も算出し、どう進めていくべきか再考していただきたい。(100)
- ・一体型の小中一貫校にすると、子どもたちの通学の問題が出てくるのではないかと感じている。(現在の学区でも遠さのために通学を嫌がる子もいるため)その場合は、スクールバスの運行なども考えているのでしょうか。ユネスコの学力観がとても良いなと思いました。共に生きることを学ぶ learning to live together 人として生きることを学ぶ learning to be (112)

### ■ 子どもたちについて

- ・どんな学校で過ごしたいのか、子ども達自身の声も聞いてほしい。大人の顔色をうかがって息苦しい時間を過ごす、大人の求める子ども像を目指さなければならないような教育施設そのものを、せつかくこの機会に見直してほしいです。子ども一人一人の「やりたい」を伸ばしていけるように、大人から

見た主体性（手を挙げればよい?!）ではなくて、本当の主体性を発揮できる環境づくりを考えられたらと思います。（12）

- ・どんな形でもかまいませんが、子どもたちが笑顔で過ごせることを第一優先にしてください。（90）

### ■ カリキュラムについて

- ・小学校高学年と中学校1年生の外国語では、ほとんど同じ内容を扱っています。小中一貫で言うのであれば、小学生と中学生が同じ教室で同じ授業を受けることも外国語であれば考えられると感じました。（27）
- ・小中一貫カリキュラムWGでは、検証授業を行っているが、実際に授業をする前にカリキュラムの整理にもっと時間をかけたかったという感想をもった。校内ですら中1～中3の教科内で一貫した教育をするために話す時間がとれていないのに、小中でできるのだろうかと不安。しかし大変ではあるが一貫したカリキュラムが大事というのには首肯したい。（75）
- ・添付の教科（数学）の小中学習内容の統計がありましたが、学習内容については学習指導要領に従うかつ小中で同じ教科書会社を選択すればスムーズに小から中へ移行していくと思います。小中一貫教育といえども、教科学習内容は変わらないと思いますが、小中一貫や中高一貫教育の長所は、保護者の側からは学習内容の繰り上げで早く受験体制に入れるとか、一貫した教育目標によるきめ細やかな授業・支援を得られるとか6年、9年とまとまった時間好きなことに集中できることにあるのではないのでしょうか。また、義務教育の年間カリキュラムの作成を行う現場の教員の仕事なのではないでしょうか。（115）

### ■ 教員の働き方について

- ・小中一貫にすることで教職員の負担は減るのか。（76）
- ・教員の仕事量や、必要のない出張・会議をへらす方に力入れてほしい。（92）

### ■ 推進体制・方法について

- ・地域の方とともに、今の時代に求められる教育をともに創っていきたくて思いました。義務教育9年間の子どもをみんなで同じ方向むいて育てたいです。（16）
- ・小学校同士の横断的な働きかけをもっと積極的にした方がよいと思います。カリキュラムWGの担当を、1年ごとに交代する小学校がありますが（中学校は教科専門なので基本固定）、毎年引き継ぎからスタートしたり、主体性が

なかったりなどで（今年からスタートなので仕方ないですが）正直中学校だけで話が進むこともたまにあります。担当は固定してほしい。（中一ギャップの問題に直面する生徒を持つのは中学校なのも意識の差が生まれる原因としてあると思います。（29）

- ・ 最後の方の意見すばらしかったです。家庭、地域、学校もっと議論必要だと思いました。（35）
- ・ 将来を見越した学校づくり、子どもの育ちを考えて進めて欲しいです。学校の意義、目標まずは根かんになる部分を共通認識もって進めるべきだと思います。（36）
- ・ もう少し、町、学校、地域、家庭で話し合う場が必要だと感じました。（47）
- ・ 小中一貫は、小学校の先生方が中学の部活をみなければならなくなるなど、負担が増えるのではないかと不安です。小5,6年と中1がくくりなのに中学の先生方は小学校に合わせようという気が全くないように感じます。小学校が変えるようにしていくことを中学校の先生方は、望んでいるように思いますが、中学校の先生が小学校に合わせることもあってもいいと思います。（72）
- ・ 連携を小中で行っていく際に小学校に訪問して教えに行くことはあるのかなと思いました。（73）
- ・ 中学校の教員だが、中1でのギャップについては教科によって異なると考えている。小学校から中学校に進学するにあたって勉強内容でつまづくのは教科にすると考える。ギャップとして捕えられた教科のみ連携を図る方が教員の負担は減るのではないかと思う。子ども達が勉強に困り不登校になっている事例はとても少ない。友人関係のトラブルやSNSのトラブルの方が多く問題である。小中一貫で友人との関係やSNSのトラブル解消に向けた小中の連携が必要だと思う。（74）
- ・ 5つの校舎がわかれているうちは、同じカリキュラムで、「気持ちは一体型」といった感じですかすんでいくのかなと思います。連携していくことについては、どうやって時間を生み出すのか、今でも放課後が忙しいのできびしいのではないかと感じてしまいます。気持ちはつながっているということを忘れず、オンライン等も活用して多くの先生方と子どもたちにとってよいことを考えていきたいと思います。（82）
- ・ 子どもがわくわくする体験を取り入れたり、地域の方、専門知識を持った方が授業して頂くなども考えられたらいいなと思いました。（98）
- ・ 町民の方（特に今後、小中一貫学校に在籍するであろう児童・生徒とその保護者）は、どれほどの方が、賛同し、理解しているのでしょうか？子ども

は、お知らせのプリントが配られるたびに、「えっ！そうなの？」という反応です。もっと町民へのアピールが必要ではないでしょうか？（103）

## ■ 方向性について

- ・ 来年度から分離型で小中一貫教育がスタートしますが、まだ実感がわからない部分が多くあります。一体型に向けてどのようなことが変わるのか、私たちがすることや変えていくことは何なのか、がもっと分かると良いと思いました。（44）
- ・ なぜ急いで「施設分離型」で小中一貫教育校をスタートするのか、将来一つの「施設一体型」の一貫校を作るのか疑問は残ります。大原学院のケースはむしろ小規模校での実践例ではないでしょうか。今日のお話は子どもたちの姿が見えず、むしろ経済界の求めのようなお話でした。質疑の中で中井先生のお話にすべてではありませんが、共感する部分がたくさんありました。（49）
- ・ 文化の異なる小・中学校を一体化し、一つの文化を作るためには、一人の校長のもと全教職員が一つの校舎に集まらなければ不可能だ。この観点から現施設を活用して施設一体型の小中一貫校三校設置する。学区の変更も必要。来年度から予定されている分離型の場合、小学校5、6年生は中学校に登校させ、課目分担制（教科担任制）の教育にすべき。（58）

## ■ 全般について

- ・ 4－3－2を意識した小中一貫校ステキだと思います。また、最後の2年間は学びを選択できるようにすると子どもの主体性が育めたり、学びが豊かになったりすると感じました。施設一体型になった際の敷地内に図書館やカフェがあったら…なんだかステキで教員も働きたくなるし、子どもも通いたくなりそうだと思います。（8）
- ・ 夢がふくらみました。（26）
- ・ 本日は、ありがとうございました。小中一貫については、知ってはいましたが実際どのようになるのかあまりよくわからなかった。今後、教える側も生徒も不安がある。今、行っている学校のビデオでも観たいと思った。（33）
- ・ 結局一貫校にするメリットがあまり分からなかった。（43）
- ・ 誰の為の一貫教育なのかわからない。子ども達や先生方の移動や建物の事、その前に二宮町としての光が見えない。（60）
- ・ 本日の講演を聴いた限りでは、小中一貫教育を導入する理由が理解出来なかった。話の多くは現状でも改革可能な話と捉えてならない。結論的には、小中一貫ありきの様に思えてなりません。（62）

- ・ 5校→1校なのか (63)
- ・ 小中一貫教育の目指すところについて理解できるのですが、今の二宮町の取り組みは「方法」や「手立て」ハンドサイン、全員挙手などが一人歩きしていて、根幹である目的が見失われているように思います。このままで良いのでしょうか。もっと目的に近づけるように講師の先生を検討し直していくなど必要だと思います。 (68)
- ・ 部活動についてどう考えているのか？ (70)
- ・ 学校は変わるのですね。集まって、たいめんてなされなければできないことがあると思います。 (80)
- ・ オンラインでは共感・共鳴は生まれないと研修で学びました。何でもかんでも「オンライン」ではいけないと思いました。 (88)
- ・ 自分でも理解しきれていない部分も多かったので、来年度に向けてもう一度、理解を深めていこうと思います。 (93)
- ・ 小中一貫とした時に子供たちへの授業の仕方がどう変化していくのかまだイメージができない。小学校のクラブ活動、中学校の部活動に変化はあるのだろうか？ (96)
- ・ 小中一貫教育は、夢みたいなものだと思っていたが、実際に話を聞くと現実味が高まりました。課題はたくさんあるだろうけれど、少し楽しみになりました。 (104)
- ・ 質問された方のご意見のように18年後の施設一体型の小中一貫まで、分離型で老朽化する施設を修繕しながら…というのは、その後、旧施設を地域で活用していくとはいえ、違和感を覚えました。施設一体型こその一貫教育ではないかと思います。 (115)
- ・ 内容が知りえる情報だった。予期せぬ副産物もあると期待する小中一貫教育ですが、まずは町として世界に対応できる教育をどう創造していけるか。目標が知りたい。通学範囲が広がるので、足の心配はしているのですか。本日は、小中一貫教育の何を理解して欲しかったのか。 (127)

## ■ その他

- ・ 最後の質疑で、自分の意見を言いたい人のことを聞く必要ない。中身のいみがなかった。その分休憩時間10分にすべき。 (117)
- ・ マスクを着用していない方がいました。受付で止める、または、注意や呼びかけをすべきでは。この感染者数で対面で結構するのであれば、参加者の健康を守る配慮をしてほしいです。今日こそオンラインでよかったです。 (65)
- ・ この感染の状態を集めて講演するべきなのか。 (69)

- この状況下ならオンラインの方が良かったのでは？ (87)
- 感染がとても不安でした。職場で感染に十分気を付けるようにと終われる一方で、大勢が集まる場に行くように命じられることに不信感を持ちます。感染対策も十分ではないし、密になっていたと思います。人の命や健康を第一に考えてほしいです。(オンラインでも良かったのでは) (114)